

朝鮮半島新石器・青銅器時代の農耕関連遺跡

キム ビヨンソブ
金炳燮（慶南發展研究院歴史文化センター）
庄田慎矢 訳

I. 新石器時代

新石器時代の農耕活動を示す代表的な例は、黃海道鳳山郡智塔里遺跡第2文化層で発見されたアワと、石鎌・石鋤などの農器具であった。以後、起耕具とすりうすなどの石器やアワ・キビなどの穀物資料は、漢江・錦江・南江流域の多数の遺跡で確認された。こうした資料は農耕活動を間接的に示すもので、農耕をより積極的に反映する農耕関連遺跡の調査は全く無かった。よって、新石器時代は栽培作物に対する依存度の低い狩猟・採集経済社会であり、青銅器時代を本格的な農耕社会と見る認識が優勢であった。こうした中、最近（2012年）、江原道高城郡文岩里遺跡の発掘調査で東アジア最古のもの（新石器時代中期）と推定される畠跡が調査された^(註1)。

文岩里遺跡の畠跡は、上・下2層において確認され、畠と畠間が造成されている。上層畠の畠の方向は丘陵の等高線と直交し、海拔2.71～2.89mに位置する。調査面積は1,260m²であるが、実際の規模はさらに大きかったものと推定される。畠幅は38～82cm、畠間幅は40～90cm、畠間の深さは15～17cmである。作物栽培痕跡、耕作具の痕跡、畠間機能時の堆積層、畠の雑草などが確認された。しかし畠層において考古学的に明確な年代資料が検出されなかつたため、正確な造成年代は知りえない。

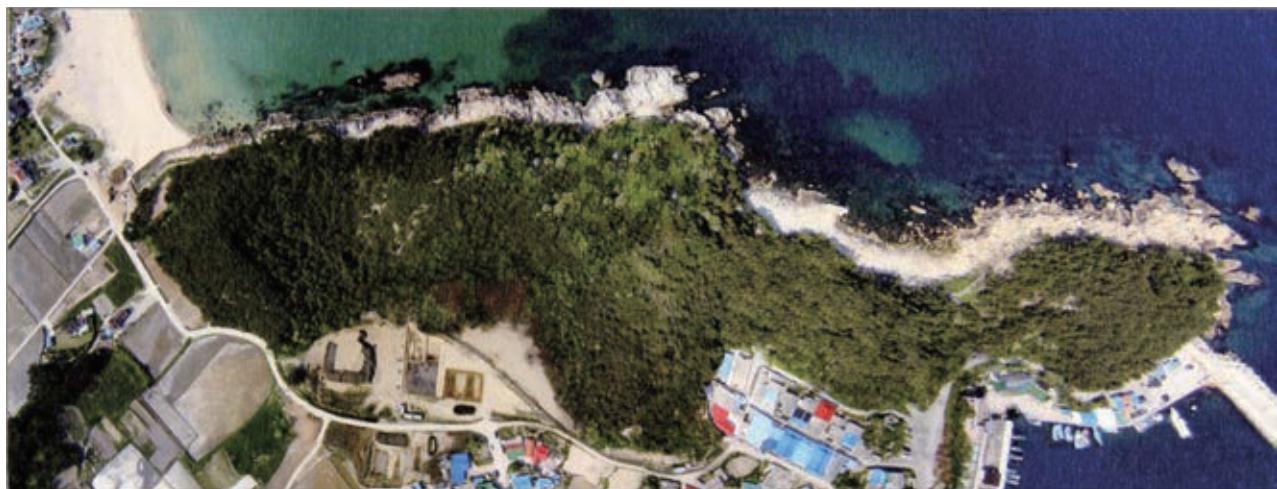
下層畠は上層畠に比べ定型性に欠き、上層畠によって耕作面がかなり削平され、西側と北側は形態を推定できない。東側と中央部は畠と畠間が並んでおり、南側と東側の端では方形あるいは長方形の畠間型態が見られる。畠の方向は丘陵の等高線と直交し、海拔2.61～2.63mに位置する。調査面積は1,000m²程度で、畠幅は45～150cm、畠間幅は40～80cm、畠間の深さは13～15cmである。下層畠の内部から櫛文土器片（短斜集線文土器）と石鎌が出土し、新石器時代中期の土器（沈線文系土器）が出土した5号住居址が下層畠を掘削して造成されており、そして下層畠の土壤（砂）試料に対する光ルミネッセンス測定（OSL分析）の結果、 $5,000 \pm 700$ BPの年代が得られ、新石器時代中期に造成された畠と推定されている。焼畠と散播のような原始的形態の農耕よりは発展した形態の農耕が新石器時代中期に登場していた可能性が提起されている。

しかし、新石器時代中期の住居跡が確かに畠と畠溝からなる耕作面を掘削して造成されたのかどうか、あるいは下層畠が造成された層を掘削しているのかによって、年代問題に対する解釈は変わる余地が大きい。また、下層畠から出土した三角形の石鎌が、束草朝陽洞遺跡の支石墓から出土したものと類似する点も、看

(註1) 國立文化財研究所, 2012, 「高城文岩里遺跡（史蹟426號）發掘調査」 현장설명회자료집.

2012, 「문암리유적」『계간 한국의 고고학』 20.

조미순, 2013, 「고성 문암리유적 발굴조사 성과와 과제」『자연과학에서 본 農耕출현』, 제 1 회 동아시아 농경연구 국제워크숍, 국립문화재연구소.



高城文岩里遺跡全景

過できない点である。

高城文岩里遺跡の畠は、同じ時期の中国や日本でも調査された事例がないため、新石器時代中期という年代問題と新石器時代の本格的な農耕問題などに対する論争は続くものと考えられる。

Ⅱ. 青銅器時代

韓国では、1990年代後半に大坪里遺跡を中心とする南江ダム水没地区の発掘調査がなされることで、青銅器時代研究があらたな転換点を迎えた。青銅器時代中期の大規模環壕集落の発見とともに、早期設定の契機となる突帯文土器が伴う集落が確認され、さらには青銅器時代～三国時代の大規模な畠跡が調査された。大坪里遺跡で畠跡が調査された後に、農耕遺跡に対する研究と調査が本格的になされるようになった。この頃に水田遺跡に対する調査方法が紹介され^(註2)、嶺南および湖西地域を中心に、多くの遺跡で水田の調査がなされた。以後、畠と水田、さらに灌漑施設に対する調査方法についての議論と資料集成が、持続的に多く

(註2) 곽종철, 1997, 「沖積地遺蹟·埋沒 논의 조사법 소개 (上)·(下)」『韓國上古史學報』第24·25號, 韓國上古史學會.

2000, 「發掘調查를 통해 본 우리나라 古代의 水田稻作」『韓國 古代의 稻作文化』

2001, 「우리나라의 선사~고대 논·밭 유구」『한국 농경문화의 형성』 제25회 한국고고학전국대회, 韓國考古學會.

곽종철·문백성, 2003, 「논유구 조사법 재론」『湖南考古學報』18輯, 湖南考古學會.



高城文岩里遺跡の畠跡の細部



畠層と住居跡の重複状態



畠出土石鎌



束草朝陽洞遺跡支石墓出土參角形石鎌

高城文岩里遺跡と束草朝陽洞遺跡の資料比較

の研究者によってなされてきた^(註3)。

発掘調査を通じて確認される青銅器時代の農耕と関連する考古資料は、水田や畠などの耕作遺構以外にも集落内において出土する炊事用および貯蔵用土器、土器に見られる穀物圧痕、各種農工具などがあり、植物遺体と自然科学分析を通じて確認される穀物資料も含まれる。

現在までに調査された青銅器時代の耕作遺構のうち、畠は後期、水田は前期末～後期に集中している。耕作遺構に対する調査法が紹介され、本格的な調査が始まってから10年余りが過ぎたが、今まで調査された耕作遺構に対してその機能と特徴、耕作遺構としての判定などについて、全般的に検討する。

1. 水田関連遺跡についての検討

1) 形態と立地

水田は耕作単位面が造成される形態によって、小区画水田と階段式水田に大別される。小区画水田は地形傾斜のある場合、階段式の形態が付加されることもある。水田が造成される立地は、大・小河川辺の氾濫原の後背湿地、低丘陵の間の谷部、丘陵末端部などに分けられる。水田の形態は水田が造成される立地に大きく影響されるが、地形傾斜がほぼない谷底面や河川辺の後背湿地では小区画形態が主で、地形傾斜のある谷頭・谷斜面・丘陵末端部では、階段式の形態が主に造成されることが分かる。

2) 灌溉施設

<第2図>のような現代の灌溉形態を参考にするならば、水田は用水源と堰、用水路(幹線水路・支線水路)、取水口、水口、排水口などの灌溉施設を備えている。青銅器時代の水田が調査された遺跡では用水源・用水路・水口・貯水施設などが確認される。

- ①. 用水源: 堤を備えた完全な形態の用水源は確認されていないが、密陽琴川里遺跡では水田の北側で同時に調査された後背湿地が用水源として利用された可能性が高い^(註4)。谷部や斜面末端部に造成された水田の場合、湧泉水を利用したものと見ている^(註5)。
- ②. 用水路: 用水源から水田面へ水を引くために作られた水路であり、嶺南地域では蔚山鉢里・西部里南川・

(註3) 金炳燮, 2003, 「韓國의 古代 耒遺構에 대한 檢討」『古文化』第62輯, 韓國大學博物館協會.

, 2009, 「밭유구의 調査方法과 田作方法」『한국과 일본의 선사·고대 농경기술』 경남발전연구원 한·일국제학술대회 윤호필·고민정, 2006, 「밭유구 조사법 및 분석방법」『야외고고학』 장간호, 한국문화재조사연구기관협회.

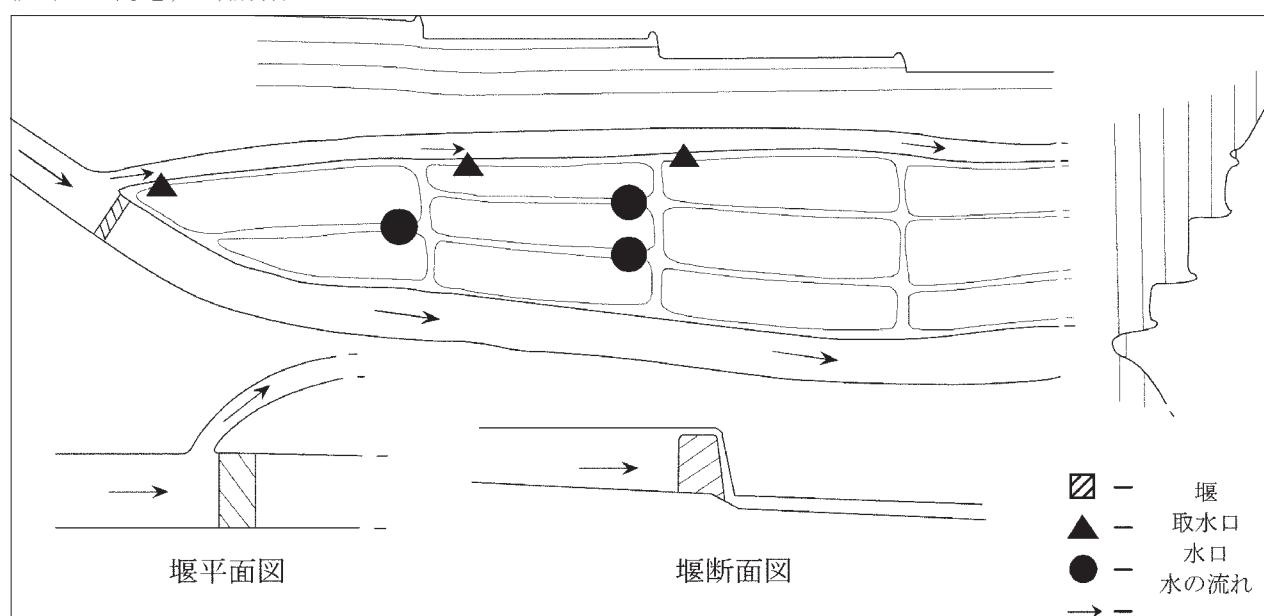
문백성, 2009, 「논유구 조사방법 및 분석과 해석」『한국과 일본의 선사·고대 농경기술』 경남발전연구원 한·일국제학술대회.

곽종철, 2010, 「청동기시대~초기철기시대의 수리시설」『한국고대의 수전농업과 관개시설』, 서경문화사.

안재호, 2010, 「각 지역의 경작유구」『한국고대의 수전농업과 관개시설』, 서경문화사.

(註4) 後背湿地では円形粘土帶土器が出土地しているが、その時期と関連する堰施設がともに調査された。

(註5) 곽종철, 2010, 前掲書.



第2図 現代の水田における灌溉形態模式図(金度憲2003)から一部修正

玉峴遺跡、密陽琴川里遺跡、馬山鎮東・網谷里遺跡、晋州平居洞遺跡、湖西地域では論山麻田里遺跡、扶余松鶴里・九鳳・蘆花里遺跡などで確認される。

③. 水口：一つの水田面から他の水田面へ水を送り出すために設置されたもので、蔚山玉峴遺跡、密陽琴川里遺跡、晋州平居洞遺跡など小区画水田で主に確認される。

④. 貯水施設：用水確保のための施設で、論山麻田里、安東苧田里遺跡で調査された。

4) 用水路に対する検討

水田の端や周囲で確認される用水路（溝）について、果たして水田に水を供給する用水路の機能をしたものかについて疑問のある遺跡が存在する。

蔚山鉢里遺跡の用水路は等高線に平行する支線水路（8号溝）と等高線と直交する幹線水路（7号溝）が確認されたが、幹線水路の底面の高さが低い。幹線水路で水位を高め、支線水路へと水を供給するためには、一種の堰に似た水止め施設が必要であるが^(註6)、こうした施設が確認されなかつたため、支線水路側に水を供給できるか疑問である。西部里南川遺跡の場合、水田面よりも高度が高い北側の端に溝が造成されているが、水止め施設と水口などの施設が全く確認されなかつた。平居洞遺跡では、水田の端に等高線と平行する溝が造成されているが、水田の境界と用水路の機能を果したものと推定している。平居洞遺跡では、用水源と堰などは確認されなかつた。

用水路とみることのできる溝が確認されてはいるが、用水路を通じた持続的な水の供給がなされるためには用水源の確保が必須である^(註7)。論山麻田里遺跡では用水源は確認されなかつたが、湿地化した水路および貯水場、貯木場など、水田と関連した灌漑施設が確認された。鉢里・西部里南川・平居洞遺跡の用水路は麻田里遺跡のように湿地化しておらず、用水路の土層において水の流れと停滞を把握できる様相が確認できないため、用水路の機能を果たしたと断定するのは難しい。水田の端の溝は耕作地の境界の意味もあつたであろうし、降雨時に周辺の高地から耕作地に雨水や土砂が過度に流入するのを防ぐ目的ももつていたとみることができよう。

5) 天水田

後背湿地に立地する晋州平居洞遺跡と谷底面に立地する蔚山屈火里センギトゥル遺跡の場合、周辺に明確な灌漑施設が確認されていない。両遺跡が立地するのは低地帯であり、地下水位上昇によって持続的な水分維持が可能であり、土壤の不透水性が強いため、雨水を長期間利用できるものと見られる。

6) 密陽琴川里遺跡の水田の造成時期

琴川里遺跡では用水源と用水路、堰などが良く備わった灌漑施設が水田とともに確認されたが、かなり発達した水田の形態と言える。一緒に調査された前期住居跡と同じ層で確認されているため、朝鮮半島青銅器時代の最も古い時期の水田と把握されている^(註8)。しかし、水田とともに造成された用水路は粘土帶土器が伴出する後背湿地とつながる可能性が高く、青銅器時代に初現する水田の形態が灌漑施設まできちんと備わっているという点に疑問が湧く。日本の場合、初現の縄文晩期～弥生早期の水田では琴川里遺跡のような灌漑施設は確認されていない。青銅器時代前期後半に水田が出現した後に水稻農耕技術が発展し、粘土帶土器段階に琴川里遺跡のように完璧な灌漑施設を備えた水田が現れるものと推定される。

7) 水田の判定に対する再検討

蔚山地域の水田遺跡のうち、水田床面（耕作面）が平坦でなく、地形の傾斜に沿って傾斜している遺跡がある。階段式水田では華亭洞・冷泉・也音洞遺跡、小区画水田では鉢里・南川遺跡がこれに該当する。小区画水田の場合、床面の傾斜によって耕作面が畦畔より高度の高い現状も見られる。水稻作は水田に水をためて稻の生育を助けるものであるのに、水田床面が傾斜していたり、畦畔が水田床面より低かったりする場合、水田に水をためることができない。よってこうした問題のある遺跡については、水稻作がなされた水田と判

(註6) 扶餘松鶴里・九鳳・蘆花里 A 遺跡で確認される用水路の水位を高めて水田に水を供給するための水止め施設がそのよい例である。

(註7) 金度憲,2003,「先史·古代 논의 灌漑施設에 대한 檢討」『湖南考古學報』18,湖南考古學會.

(註8) 이상길·김미영,2003,「밀양 금천리유적」『고구려고고학의 재문제』,第27回韓國考古學全國大會.

定するのには慎重な検討が必要である。ただし、水田耕作面の傾斜問題によって水稻作が難しいとはいえ、陸稻作などの他の形態の耕作遺構として把握することもできる。

2. 島関連遺跡についての検討

1) 形態

島は残存している形態によって大きく三種類の類型に分けられる。畝と畝間が連続する畝・畝間型（A型）、小さな穴が連続したり散在したりする小穴型（B型）、明確な畝と畝間は確認されず、溝によって区画されている区画溝型（C型）である。小穴形は大坪里遺跡と平居洞遺跡の島のうちでもごく一部で確認されるのみであるため、畝・畝間型と区画溝型に大別しても良いものと考えられる。

2) 立地

晋州大坪里遺跡・平居洞遺跡・加虎洞遺跡、鎮安如意谷遺跡のように、青銅器時代の大規模畝・畝間型島が調査された遺跡は大部分河川氾濫原の自然堤防に立地しており、砂質堆積層が主体をなす。反面、大邱東川洞・東湖洞・西辺洞、晋州耳谷里遺跡のような大区画になされた区画溝型の島は沖積地の中でも河岸段丘面に立地し、粘質堆積層が主体となる。自然排水が容易な地域では溝による区画がなく畝・畝間型の島を広く造成し、自然排水が容易でない地域では耕作地単位区画とともに排水のための溝を掘削したもの（大庭重信,2005）と把握される^(註9)。

3) 特徴

島は細部属性によって多様な類型に分類されるが、調査例が最も多いのは畝・畝間型と区画溝型の二種類である。

① 畝・畝間型

畝・畝間型の島は晋州大坪里遺跡・平居洞遺跡・加虎洞遺跡、鎮安如意谷遺跡などが代表的である。氾濫原の自然堤防の傾斜面に立地しており、大部分等高線と直交方向に畝・畝間を造成している。等高線と直交するように畝・畝間を造成すると、降雨時の土壤浸食が憂慮される。しかしこうした島の場合、基底堆積層が砂質土であるために透水性に優れ、限定された範囲内でのみ地形の起伏があるため、土壤浸食を憂慮する程ではないと考えられる。反面、論山麻田里遺跡の場合のように丘陵斜面部や谷部に立地する島では、等高線方向と直交するように畝・畝間が造成されたとすると、降雨時の土壤浸食が起こりうるため、畝・畝間を長く造成しなかったものと把握される。

畝・畝間型の島の区画は畝・畝間の方向転換、畝・畝間の断絶、境界溝、境界畦畔などによってなされるが、畝・畝間の方向転換と断絶によって区画される場合が多く、境界溝や境界畦畔による区画は平居洞遺跡で一部確認される。

② 区画溝型

区画溝型は溝によって耕作面の単位が区画されているが、大邱東川洞・東湖洞・西辺洞、晋州耳谷里遺跡が代表的である。東川洞遺跡の場合、区画された内部の耕作面に畝・畝間の形態が残っているが、残りの大部分の遺跡では内部の耕作面には耕作の痕跡が確認されない。区画溝型は主に河岸段丘に立地する場合が多い。河岸段丘に造営された遺跡では、基底堆積層が粘質土であることが多く、自然排水が容易でない。よって耕作地の単位区画とともに排水のための溝を掘削したものと見られる。区画溝が造成された河岸段丘は灌漑施設が発達した三国時代以後、持続的に水田として耕作されてきた。よって区画溝内部の当時の耕作面は上層の水田が耕作される過程で大部分が破壊されたものと推定される。

河岸段丘面に造成された区画溝は、区画単位の個別面積が 100m^2 ～数 100m^2 におよぶ大区画である。一方、咸安道項里 463・578 番地遺跡の事例のように谷部に造成された区画溝は区画単位の面積が 3m^2 ～ 25m^2 程度の小区画である。区画単位の規模も地形の影響を大きく受けたものといえる。

(註9) 大庭重信,2005,「無文土器時代の島作農耕」,『待兼山考古學論集 - 都出比呂志先生退任記念』,大阪大學考古學研究室.

③廃棄（休耕）と耕作

青銅器時代の畠遺跡において、埋没直前の耕作の様相を推定できるのは、畝・畝間型の畠の中でも大坪里遺跡の事例である。大部分の畝・畝間型の畠の場合、断面が緩慢な波状をなして畝・畝間の底面が屈曲なくなめらかで、畝部分が押しつぶされている場合も確認される。耕作後一定期間が過ぎた状態で洪水氾濫によって埋没したものと見られる。しかし、大坪里玉房3地区と6地区の畝・畝間型畠では畝間に内に多様な形態の起耕痕と作物植栽あるいは収穫に関連する無数の溝が確認された。これは、耕作過程あるいは耕作直後の姿をみせると考えられる。大坪里遺跡は玉房集落（玉房1・2・7・8・9地区）と漁隠集落（玉房4・5地区、漁隠1・2地区）に区別できるが、玉房集落に隣接した玉房2・8・9地区の畠と漁隠集落に隣接した漁隠1・2地区、玉房5地区の畠は耕作後休耕または廃棄された状態の畠で見ることができ^(註10)、玉房3・6地区的畠は耕作がなされていた畠と見ることができる。

いっぽう、玉房3・6地区的畠では、畝と畝間が転換したり、隣接地への移動を見せたりする畠の重複が確認される。これは連作の可能性を想定させる。

3. 耕作遺構を通じてみた韓国青銅器時代の農耕社会相

青銅器時代の耕作遺構に対する編年は詳細にはなされていないが、最近耕作遺構の集成において整理されている^(註11)。耕作地内では前後の時期の遺物がともに出土する可能性が高いため、遺物の出土状態、すなわち耕作面を覆う堆積土から出土したのか、耕作土内に混入していたのかなどに対する検討と耕作地を経営した周辺集落との関係も把握する必要がある。耕作地から出土した遺物を通じて、水田の場合蔚山也音洞遺跡、畠の場合大邱東湖洞遺跡と咸安道項里463遺跡など一部の遺跡については、前期後半～末に該当すると言える。

青銅器時代早・前期は焼畑農耕をはじめとする畠作農耕がなされ、前期末になってようやく水稻作が出現するものと議論されてきたが^(註12)、焼畑農耕の痕跡と早・前期に該当する畠がまだ確認されていない。特に焼畑の場合、議論の余地が多い。

耕作遺構から確認された穀物資料は、調査面積に比べ多くない。また、水田における植物硅酸体分析数値は満足するだけの結果が出ていない。春川泉田里遺跡の半球状遺構で5,000/g以上のイネ植物硅酸体が検出されたが、ほとんどの遺跡で3,000/g以上の場合はない^(註13)。特に蔚山地域の場合、イネの植物硅酸体が検出されなかつたり、非常に微量のみ検出されたりする事例が多い。これを、移動性の強い水田経営によるものと見ることもあるが^(註14)、前に見たとおり水稻作がおこなわれた水田ではない可能性もある。

畠で確認される穀物は、植物遺体として大坪里漁隠1地区でイネ・オオムギ・コムギ・アワ・キビ・エゴマ・ダイズ、玉房6地区でモロコシ(?)・アワ・アズキ・リョクトウ(?)・オオムギ、平居洞3-1地区でコムギ・アズキ・エンドウなどが確認され、植物硅酸体分析を通じて玉房1地区40号でアワ・キビ、玉房2地区でイネ、玉房3地区6・8号でイネ・キビ、平居洞3-3地区でキビ、清道松邑里遺跡でイネ・キビなどが確認され、鎮安如意谷遺跡でアワ・ヒエ・ハトムギ・キビが確認された。畠からイネ科植物硅酸体とキビ族の植物硅酸体が確認される例が多い。イネの植物硅酸体が検出されたことから陸稲作の可能性も予想されるが、耕作地が河川洪水堆積物によって埋没している点から、混入した可能性や動植物によって搅乱された可能性もある。また、キビ族の植物硅酸体の場合、アワ・キビ・ヒエなどの作物以外にもエノコログサやイヌビエなどの雑草類が含まれている点に注意する必要がある^(註15)。

耕作地以外の集落や湿地遺跡での穀物資料を通じ、新石器時代中期以後の主要な栽培作物はアワ・キビの

(註10) 玉房2地区では列状の石棺墓群が畠の端を破壊して造成されており、玉房5地区でも住居跡・土坑・炉跡・石棺墓などが畠を破壊しながら造成されている。これは畠が休耕または廃棄された状態であったことを示す確実な証拠といえる。

(註11) 安在浩, 2010b, 「각 지역의 경작유구」『한국고대의 수전농업과 관개시설』, 서경문화사.

(註12) 安在浩, 2000, 「韓國農耕社會의成立」, 『韓國考古學報』43. 韓國考古學會.

(註13) 문백성, 2009, 「논유구 조사방법 및 분석과 해석」『한국과 일본의 선사·고대 농경기술』, 경남발전연구원 한·일국제학술대회.

(註14) 田崎博之, 2002, 「朝鮮半島の初期水田稻作 - 初期水田遺構と農具の検討 -」『韓半島考古學論叢』, すずさわ書店.

(註15) 杉山眞二, 2000, 「植物硅酸體」『考古學と植物學』, 同成社.

雑穀であり、青銅器時代前期には新石器時代から栽培していた雑穀にオオムギ・コムギなどの麦類とダイズ・アズキなどの豆類とともに栽培されるものと報告されており、水稻作の始まりとあいまって中部地域・湖西・湖南地域でのイネの出土比重が高まる^(註16)。

水稻作は前期後半に朝鮮半島の農耕社会に流入するが、この時期の集落では儀礼を司る首長（有力個人）が登場し、遼寧式銅剣と石剣、大形の墓域支石墓、環濠、集落内において1棟の大型住居と核家族住居、赤色磨研土器の地域色などの考古学的な現象が伴うものと報告されている。そして水稻作を通じた食量生産の増大は証明されておらず、三国時代でも食糧供給地としての水田の役割は微弱であるため、水田の付随的な機能・水田に集まる魚や鳥類、シカやイノシシなどの野生動物を誘引する場所であるという意見^(註17)に従い、野生動物の捕獲が儀礼に活用されたものと推定されている^(註18)。

青銅器時代の農耕において稻作を中心とらえ、水稻作を通じた社会変化を議論することには多少無理があるように見える。青銅器時代の穀物資料のうち、炭化米がキビ・アワ・アズキなどの雑穀と比較しても劣らない程度に多いため、水稻作が盛んに行われたと言えるかもしれない。しかし、水稻作は可耕地の確保と生産技術および管理の難しさのために普遍的と見るのは難しく、耕作地調査でも水田の調査面積は畠に比べて非常に小さい。水田が食量生産以外にも儀礼の場所として利用されたのであれば、イネは穀物の中で稀少価値と祭儀的な性格をもち、集落内で特別に管理されていた可能性も考えられる。

耕作遺構を通じてみた青銅器時代の農耕は畠作が中心となる農耕であり、水稻農耕は水稻作が可能なごく一部の地域や、イネを特殊作物として選好した集団によって、選択的になされたものと考えられる。

(註16) 安承模,2008,「韓半島 青銅器時代의 作物組成」『湖南考古學報』28輯.

(註17) 甲元眞之,2002,「東アジア先史時代漁撈」『東アジアと日本の考古學IV』

김성우,2008,「청동기시대의 어로활동」『韓國青銅器學報』第3號,韓國青銅器學會.

(註18) 安在浩,2010a,「堀立柱建物이 있는 청동기시대 취락상」『한국고대의 수전농업과 관개시설』,서경문화사.

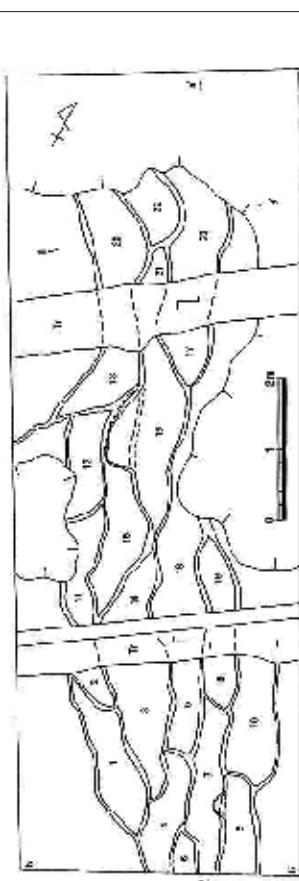
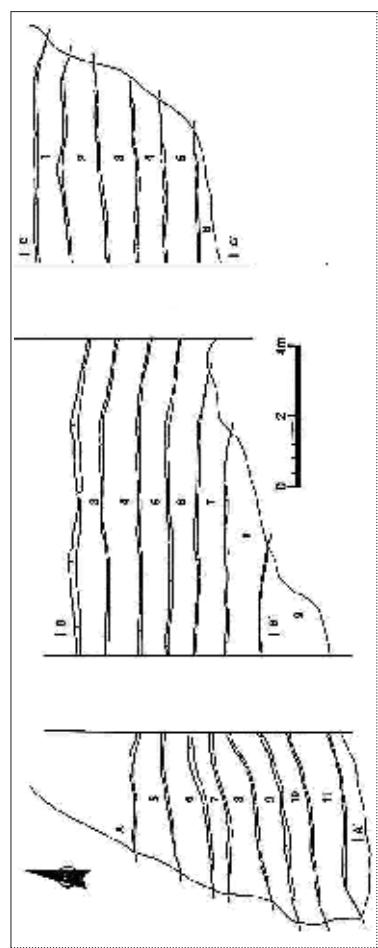
表 1) 青銅器時代 水田 關聯遺蹟現況

遺蹟名			立地	形態	水田面·規模	畦畔·規模	灌溉施設	出土遺物·時期	自然科學分析
蔚山 也音洞	谷部	階段式	39面, 細長形, 幅 30~50cm	無	不明	後期(後築) 住居址 重複	上層 植物硅酸體 少量 檢出		
蔚山 華亭洞 斜面 末端部		階段式	21面, 不定形, 規模 0.4~0.8x0.5~2.8m	無	不明	甌狀 把手 外, 後期前半	甌狀 把手 外, 後期前半	未實施	
蔚山 冷泉	谷部	階段式	11面, 細長形, 幅 1m	無, 段差 5cm	不明, 西側 溝.	二重口緣土器, 偏刀石斧, 前期後半	二重口緣土器, 偏刀石斧, 前期後半	未實施	
蔚山 桂川 汗澀原, 谷部		階段式	20~30cm 底面溝	無	不明	C14年代 2,460±30BP	花粉; 稻 少量		
蔚山 鈎里	谷部	小區劃	8面, 方形	幅 20~30cm, 高 1~3cm	幹線水路(7號 溝) 支線水路(8號 溝)	孔列土器, 把手 等 後期前半	孔列土器, 把手 等 後期前半	未實施	
蔚山 南川 汗澀原, 段丘		小區劃	24面, 方形·長方形, 規模 1.5m x 3m 最大規模 2.3 x 3.26m	幅 30~40cm	幹線水路 溝	前期 未~後期(?)	花粉; 作物 確認되지 않음		
蔚山 生기들	谷底面	小區劃	34面, 方形·長方形, 最大規模 2.3 x 3.26m	無	不明, 水口 7개, 自然傾斜 利用	周邊 丘陵 住居址 前期 未	植物硅酸體 地質考古分析: 약한 강도의 稲作 可能性		
蔚山 玉峴	谷部	小區劃	70面, 方形, 規模 1.3~4.2 x 2.2m	幅 15~20cm, 高 3~5cm	用水源, 潟, 用水路, 量 五	前期 未~後期 前半	未報告		
密陽 琴川里	汎澀原	小區劃	70面, 長方形, 規模 5~6坪	幅 15~20cm, 高 3~5cm	用水源, 潟, 用水路, 量 五	前期 未~後期 前半	未報告		
晋州 平居洞 3-1地區	1層(7)	小區劃	91面, 方形·細長形·弧狀·不定形, 規模 2~6 x 2.5~9.8m	無, 段差 2~10cm	가정자리 溝 물五	松菊里型土器, 石鏟, 砥石 等. 後期	穀物 確認되지 않음		
	1層(14)	小區劃	97面, 長方形·方形 規模 3~5 x 2~2.5m	幅 20~30cm, 高 3~7cm	가정자리 溝	深鉢, 漁網鉋, 旱稻形石器 等. 後期			
	2層	小區劃 階段式	90面, 方形·細長形·弧狀·不定形, 규모 2~5.8 x 2.5~5m, 단차 2~10cm	段差 2~10cm	가정자리 溝	松菊里型土器, 漁網鉋, 砥石 等. 後期			
晋州 平居洞 4-1地區	1層	小區劃	95面, 方形·細長形·弧狀·不定形, 규모 3~5 x 2~2.5m	幅 20~30cm, 高 2~5cm 段差 2~10cm	不明	深鉢, 漁網鉋, 砥石, 旱稻形石器 等. 後期	穀物 確認되지 않음		
	2層	小區劃	14面, 方形·細長形·弧狀·不定形 規模 3~5 x 2~2.5m	幅 20~30cm, 高 3~5cm	不明	旱稻形石器 等. 後期			
咸安 道項里 578	谷部	階段式	土層 斷面에 서 確認		幹線水路 吳 支線水路	後期	未實施		
馬山 鎮東 斜面末端部	汎澀原 段丘	不明	溝에 의한 區割 確認.	幅 30cm, 高 5cm	用水路 吳 暗渠	後期	未實施		
馬山 網谷里		不明	甌水施設, 規模 長 60m, 幅 15m		甌水施設	後期	稻 秆 叶 等 植物遺體 少 量, 稲作 可能性.		
安東 莹田里 1號	谷底面	不明	1號 甌水施設 發棄 後 上部에 2號 造成			날알土器, 孔列土器 等. 後期			
論山 脾田里	斜面 末端部	階段式	15面, 長方形·不定形, 規模 長 9~15m, 17~23, 幅 4~6m			질구궁이, 날알문·把手附土器. 後期			
扶餘 九鳳 ·蘆花里 A地區	汎澀原	小區劃	30面 以上, 長方形·不定形 九鳳里 幅 3m, 蘆花里 4.42 x 2.72m	九鳳里 幅 10cm, 高 3~5cm 蘆花里 幅 40cm, 高 2~2.5cm	石劍, 赤色磨削土器 等 後期	植物遺體: 벼·조·풀·개· 외·포주부			
	B地區	汎澀原	14面, 方形·長方形, 規模 長 4m, 폭 3m 內外	幅 60cm, 高 3cm	水路 吳 牙籃 等 後期	植物硅酸體: 青銅器時代 이후 安定的 稲作			
扶餘 松鶴里	谷部	階段式	12面, 弧狀	幅 20~25cm, 段差 5~30cm	弧狀의 用水路		未實施		

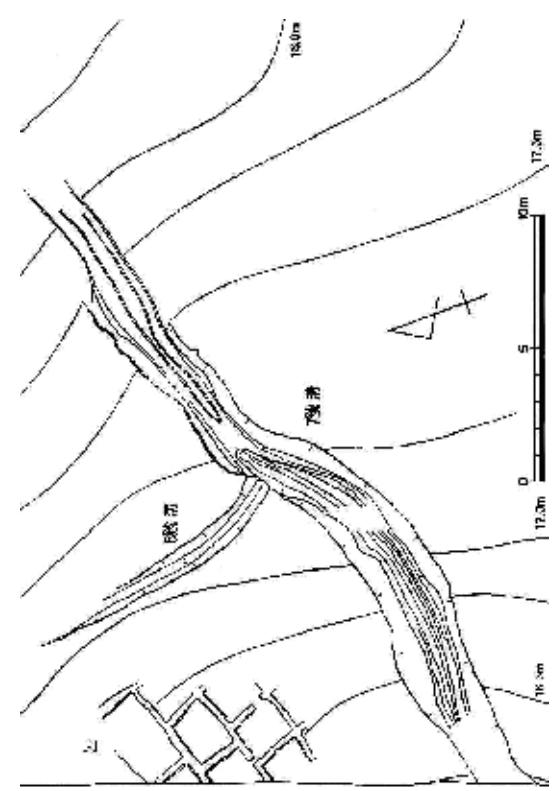
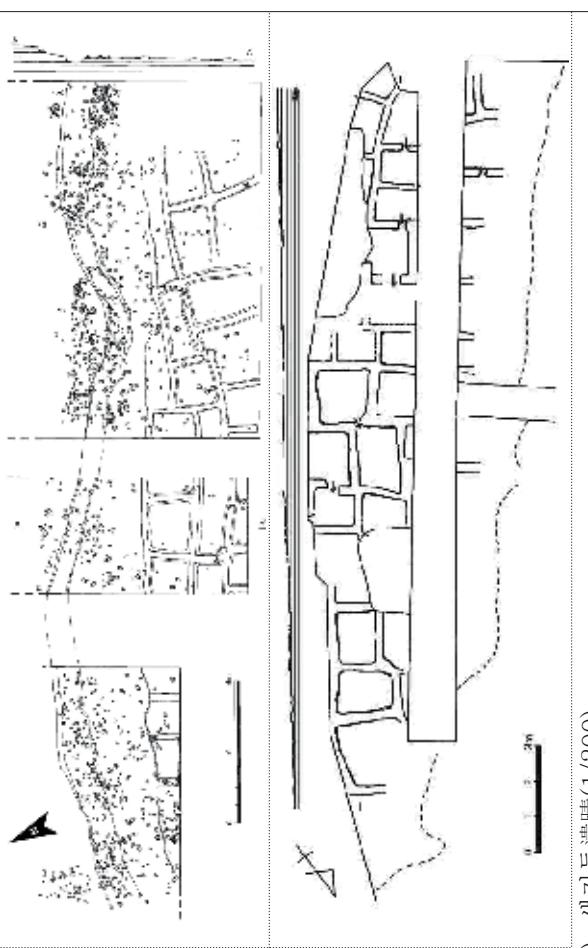
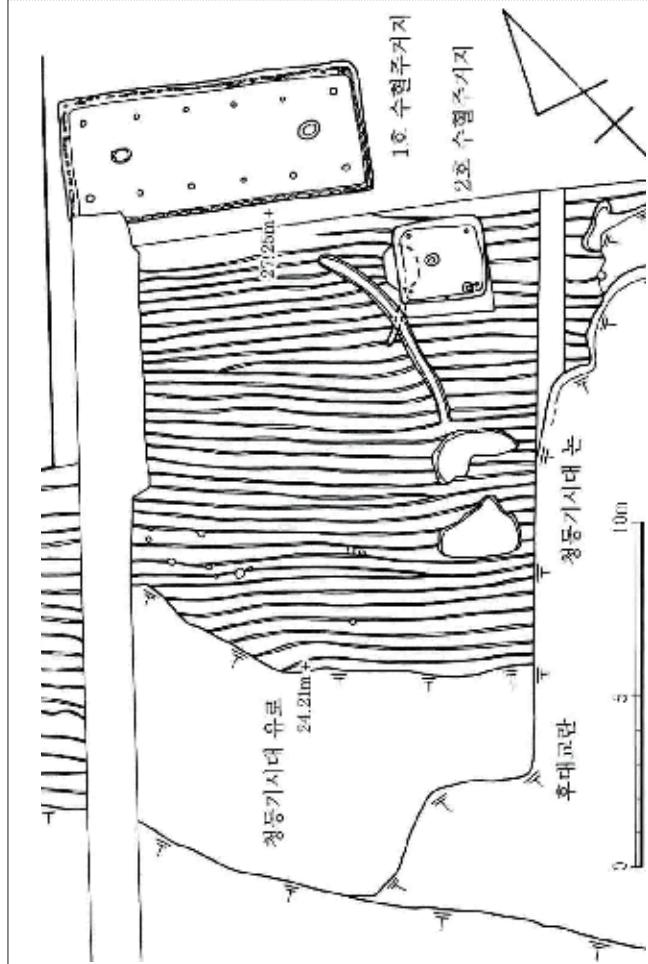
<表 2> 青銅器時代 田 遺蹟 調査現況

	遺蹟名	立地	類型	幅(cm)		耕作面 特徵		作物
				畝	敵溝	斷面	緩慢한 波狀, 2개 単位, 가장자리 境界溝?	
1	晋州 加虎洞	沖積地(自然堤防)	A	.	10	單面	緩慢한 波狀	植物遺體: 벼·보리·밀·조·기장·들깨·콩
2	晋州 大坪里 漁隱1地區	沖積地(自然堤防)	A·B	.	.	單面	緩慢한 波狀	
3	晋州 大坪里 漁隱2地區	沖積地(自然堤防)	A	30~40	40~60	單面	緩慢한 波狀, 2개 単位	
4	晋州 大坪里 40號 玉房1地區(晋·博) 66號	沖積地(自然堤防)	A	20~60	32~60	斷面	緩慢한 波狀, 퇴발?	植物柱酸體: 조·기장
5	晋州 大坪里 玉房1地區	沖積地(自然堤防)	A	18~63	25~47	斷面	緩慢한 波狀, 퇴발?	
6	晋州 大坪里 玉房2地區	沖積地(自然堤防)	A	.	.	斷面	緩慢한 波狀	植物柱酸體: 벼
7	晋州 大坪里 玉房3地區	6號	A	28~44	28~40	斷面	緩慢한 波狀	植物柱酸體: 벼, 기장
		7號	A	80~100	40~50	斷面	緩慢한 波狀	
		8號	A	50~70	40~60	敵溝 幅 넓고,	斷面 鋸齒狀	
		9號	A	40~60	30~70	4個 単位, 敵 暗 幅 넓음, 敵溝 斷面 W形		植物柱酸體: 벼, 기장
		10號	A	60~100	40~80			
		11號	A	40~60	40~60			
		12號	A	30~60	40~100	敵溝 內 起耕痕.		
		13號	A	80~100	20~40	2個 田 重複, 敵 幅이 넓음		
		8	A	60~80	40~60	2個 単位		
		9	A	52~84	40~50	5個 単位 以上, 斷面 緩慢한 波狀, 敵溝 內 起耕痕		
		晋州 大坪里 玉房5地區 B	A	40, 110	40	7個 単位, 斷面 緩慢한 波狀, 住居址·石棺墓(後) 重複		
		A號	A·B	80	50	2個 田 重複, 敵溝 內 起耕痕	植物遺體: 수수(?)·조·쌀·녹두(?)	
10	晋州 大坪里 玉房6地區	B號	A	72	40	斷面 宽만한 波狀	植物遺體: 보리	
		C號	A	70	40	斷面 宽만한 波狀, 敵溝 內 起耕痕		
		D號	A·B	100	40	2~3個 田 重複, 敵溝 內 起耕痕		
		E號	A	80	40	2個 田 重複, 敵溝 內 起耕痕		
		F號	A·B	72	28	2個 田 重複, 敵溝 內 起耕痕		
		G號	A·B	80	40	2個 田 重複, 敵溝 內 起耕痕		
		H號	A	.	.	不規則		
11	晋州 大坪里 玉房8地區	沖積地(自然堤防)	A	80	60	3個 単位, 斷絕에 의한 區劃, 斷面 緩慢한 波狀		
12	晋州 大坪里 玉房 9地區	3層 4層	A	40~60	40~50	2個 単位(小谷에 의한 區劃)		
13	晋州 平居洞 3-1地區	1層	沖積地(自然堤防)	A	30~50 40~60	8個 単位, 斷面 緩慢한 波狀, 境界溝에 의한 區劃 (1과 2·4, 4와 5, 6과 7·8), 方向에 의한 區劃 6과 7·8), 散在된 小穴(1) 確認	植物遺體: 밀·쌀·완두(?)·나비나물속	

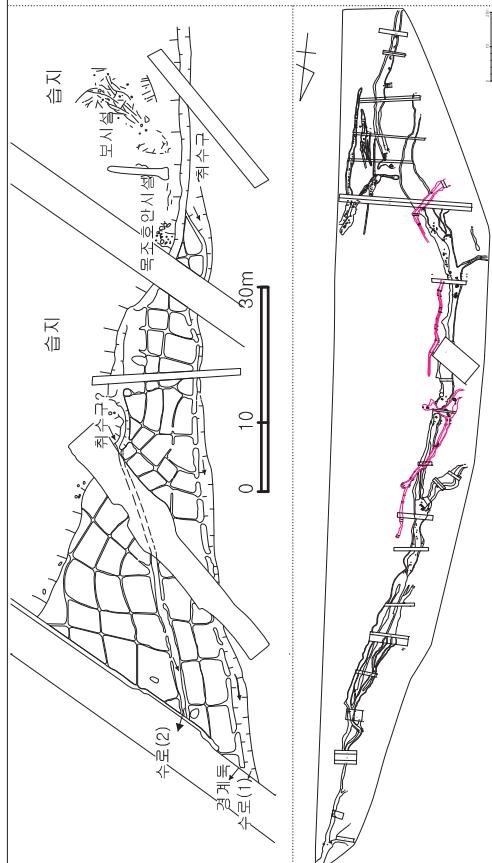
		2層	沖積地(自然堤防)	A	35~50 45~65	40~50 50~60	9個單位, 斜面 緩慢한 波狀, 方向에 의한 區劃[1 과 2, 6과 47, 8과 9], 境界溝에 의한 區劃[5와 6], 散在된 小穴(4) 確認	植物遺體: 릴·사초과
14	晉州 平居洞 3-3地區	12-1 12-2 12-3	沖積地(自然堤防)	A	50~70 54~79	45~60 45~60	3個單位, 斜面 緩慢한 波狀, 斷絕에 의한 區劃(2)	植物桂酸體: 기장
15	晉州 平居洞 4-1地區		沖積地(自然堤防)	A	35~45 40~55	32~42 40~64	19個單位, 陷作列 重複, 境界溝에 의한 區劃[2와 4], 境界畦畔에 의한 區劃[1과 4-12-13] 方向에 의한 區劃[1과 2-4, 4와 5, 8과 9, 14와 12-13, 15-16], 作物栽培痕(13), 斜面 宽만한 波狀	植物遺體 - 田1: 제비꽃속, 芭5: 명아주수, 田2: 보리·밀·명아주수·다래나무속, 田6: 보리·밀·풀·들깨속·기장속·제비꽃속, 田8: 명아주수, 芭17: 콩속·풀·제비꽃속
16	晉州 平居洞 4-2地區		沖積地(自然堤防)	A	40~60 60~75	42~46	11個單位, 斜面 緩慢한 波狀, 隆脊列 重複 方向에 의한 區劃(1과 3, 5와 6, 8과 9, 10과 11)	
17	馬山 鎮東	上層 下層	沖積地(自然堤防)	A	60	50	회미한 故溝痕 3개單位, 單面 緩慢한 波狀 方向에 의한 區劃(1·3과 2)	
18	清道 松邑里	1 2 3	沖積地(自然堤防)	A	30~40 30~50	30~40	3개單位, 單面 緩慢한 波狀 方向에 의한 區劃(1과 2)	植物桂酸體(1號): 갈대속, 찹이새속, 쇠풀족A, 벼과C타입.
19	論山 脩田里		丘陵斜面 穀部	A	36~54 76 64	46 34 36	3개單位, 單面 緩慢한 波狀 方向에 의한 區劃(1과 2) 等高線과 直交	
20	鎮安 如意谷		沖積地(自然堤防)	A	35~65	35~65	散溝痕, 水田과 田의 轉換耕作? 斷面 緩慢한 波狀	植物桂酸體: 조·과·율무·기장
21	春川 泉田里		沖積地(河岸段丘)	區劃溝			3개 層, 小區劃, 不定形	
22	大邱 東川洞		沖積地(自然堤防)	區劃溝			大區劃, 長方形·梯形	
23	大邱 西慶洞		沖積地(河岸段丘)	區劃溝			大區劃, 長方形	
24	大邱 東湖洞		沖積地(河岸段丘)	區劃溝			大區劃, 長方形·梯形	
25	大邱 嬌岩洞		沖積地(河岸段丘)	區劃溝			大區劃, 長方形	
26	大邱 東湖洞 451-1番地		沖積地(河岸段丘)	區劃溝			大區劃, 形態 不明	
27	大邱 流川洞 89番地		扇狀地(河岸段丘)	區劃溝			大區劃, 形態 不明	
28	晋州 耳谷里		沖積地(河岸段丘)	區劃溝			大區劃, 方形·不定形	
29	咸安 道項里 578		丘陵間 穀部	區劃溝			小區劃	
30	咸安 道項里 463		丘陵間 谷部	區劃溝			小區劃	
31	咸陽 石川里		沖積地(河岸段丘)	區劃溝			大區劃, 形態 不明	



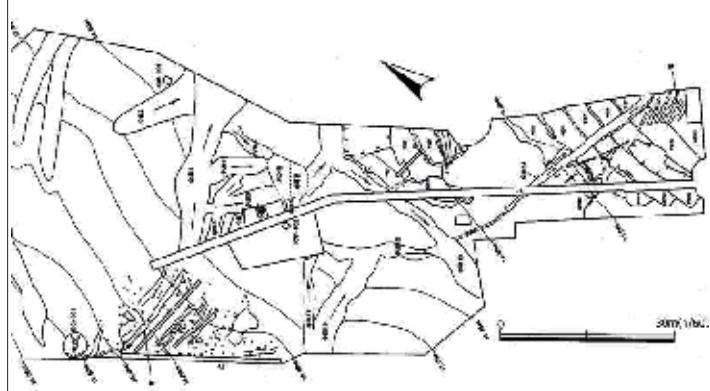
圖面1. 蔚山地域 青銅器時代 階段式 水田遺蹟 - 左: 也音洞遺蹟(1/200), 右上: 水田遺蹟(1/200), 右下: 华亭洞遺蹟(1/100)



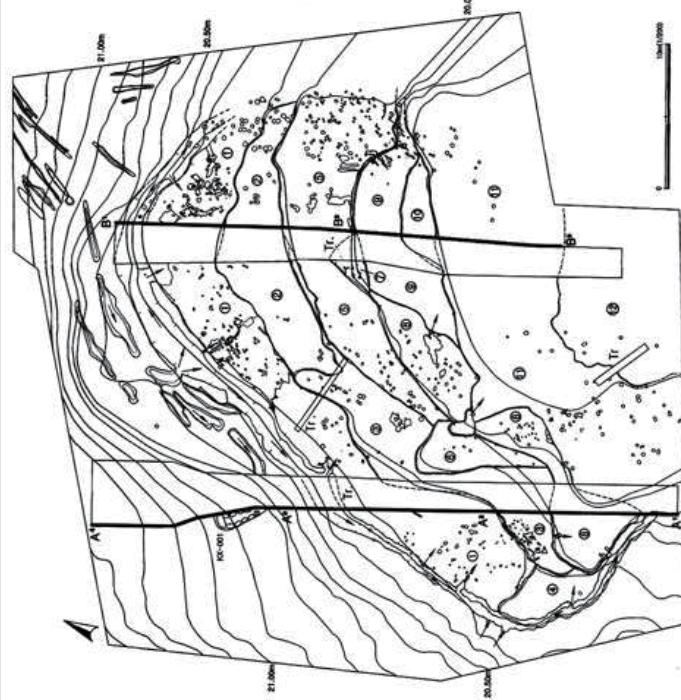
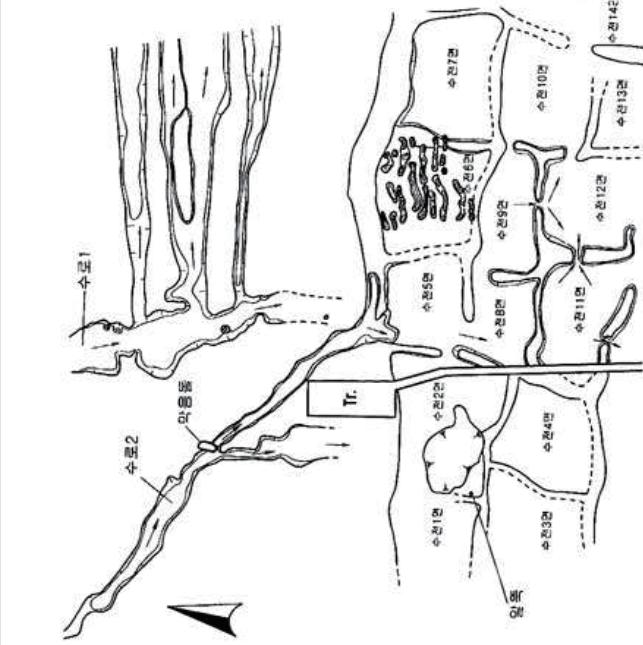
圖面2. 蔚山地域 青銅器時代 小區劃 水田遺蹟 - 鉢里遺蹟(1/200), 南川遺蹟(1/200), 생기들遺蹟(1/200)



圖面 3. 慶南地域 青銅器時代 水田開墾遺蹟 - 左上: 流陽 琴川里遺蹟(1/1,000), 左下: 馬山 鎮東遺蹟(1/1,000), 右: 馬山 網谷里遺蹟 漑溉水路 哺渠施設

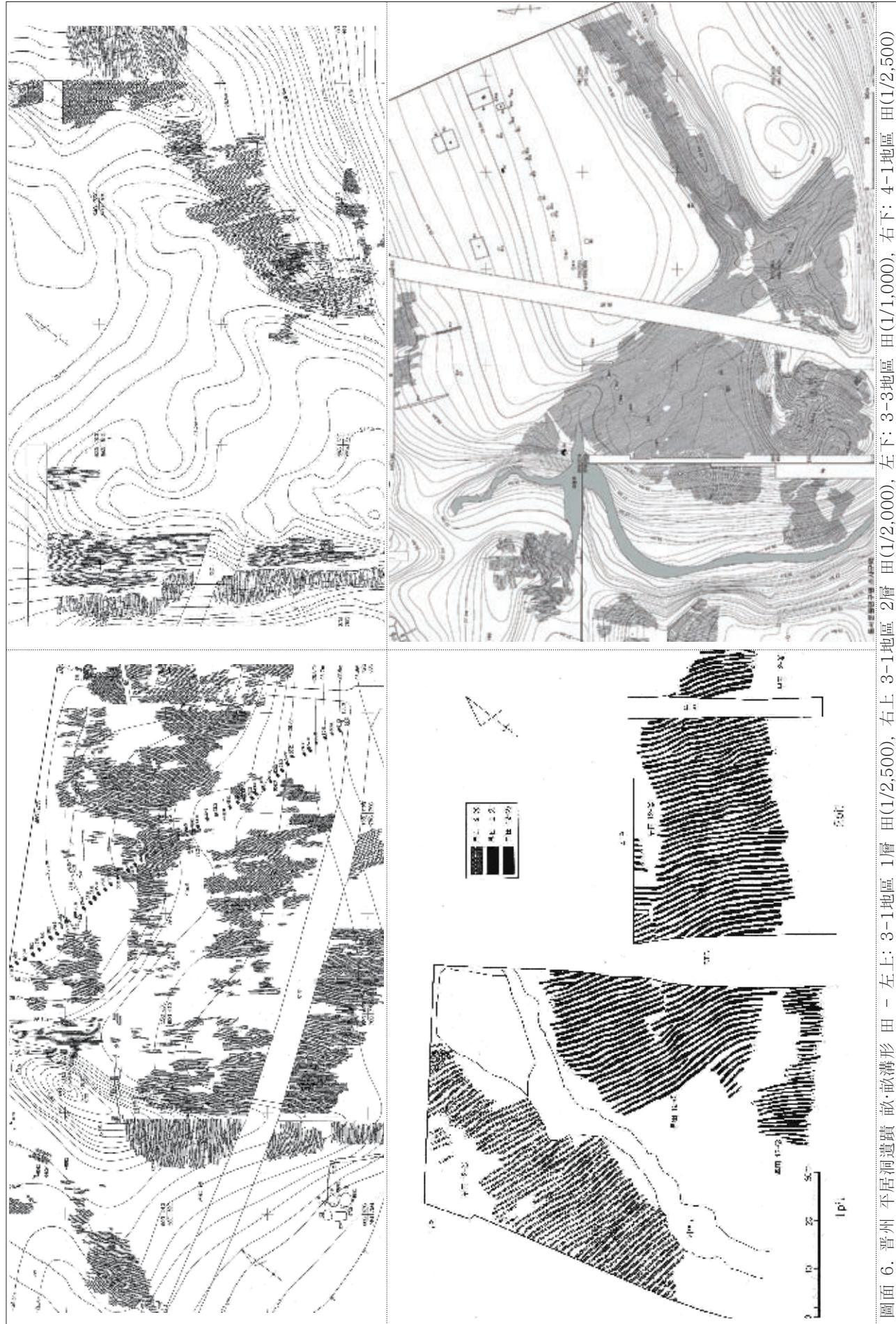


圖面 4. 湖西地域 青銅器時代 水田遺蹟 - 左: 論山 脣田里遺蹟(1/1,200), 中: 扶餘 松鵠里遺蹟(1/400), 右: 扶餘 九鳳里·蘆花里遺蹟 B地區(1/200)





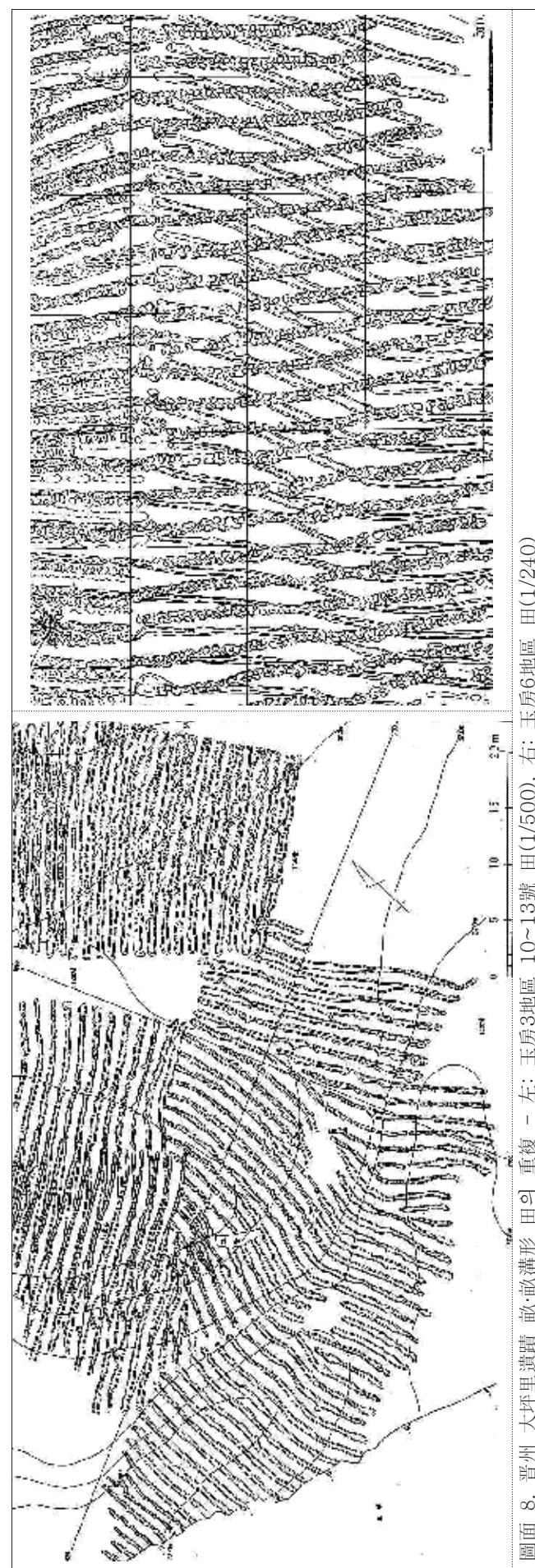
圖面 5. 晉州 平居洞遺蹟의 水田 - 左上: 3-1地區 1層(1/1,500), 左下: 3-1地區 2層(1/1,000), 右上: 4-1地區 1層(1/1,500), 右下: 4-1地區 2層(1/1,000)



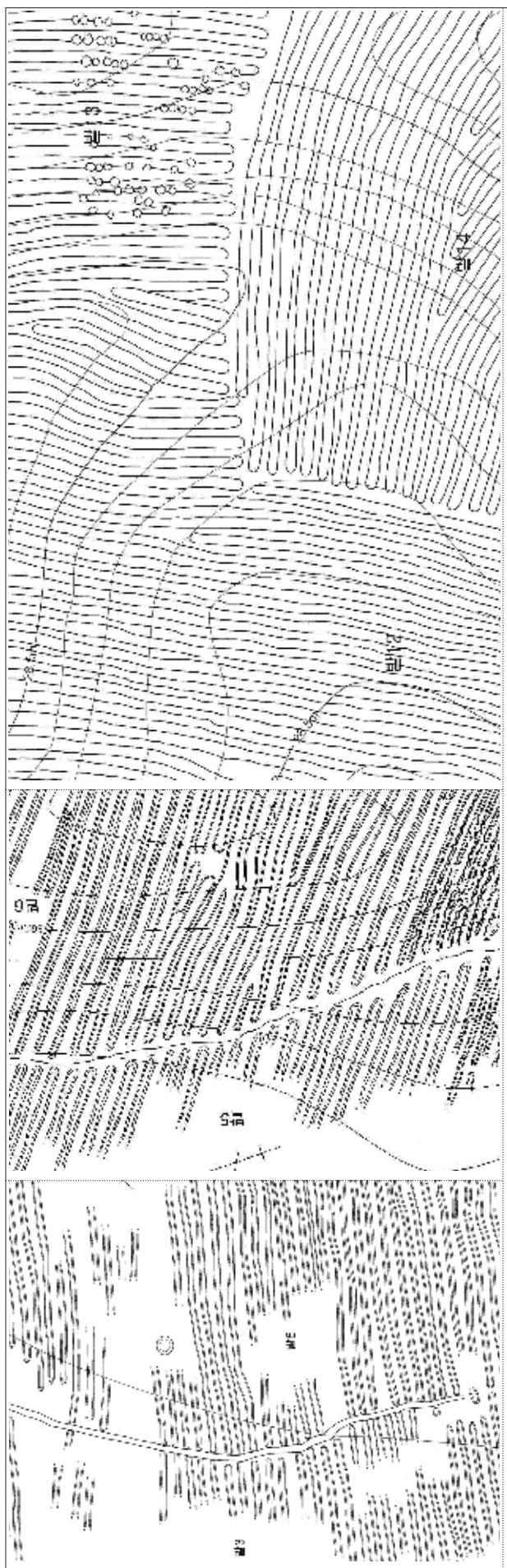
圖面 6. 晉州平居洞遺蹟 故·敵溝形 田 - 左上: 3-1地區 1層 田(1/2,500), 右上: 3-3地區 田(1/1,000), 左下: 3-1地區 2層 田(1/2,000), 右下: 4-1地區 田(1/2,500)



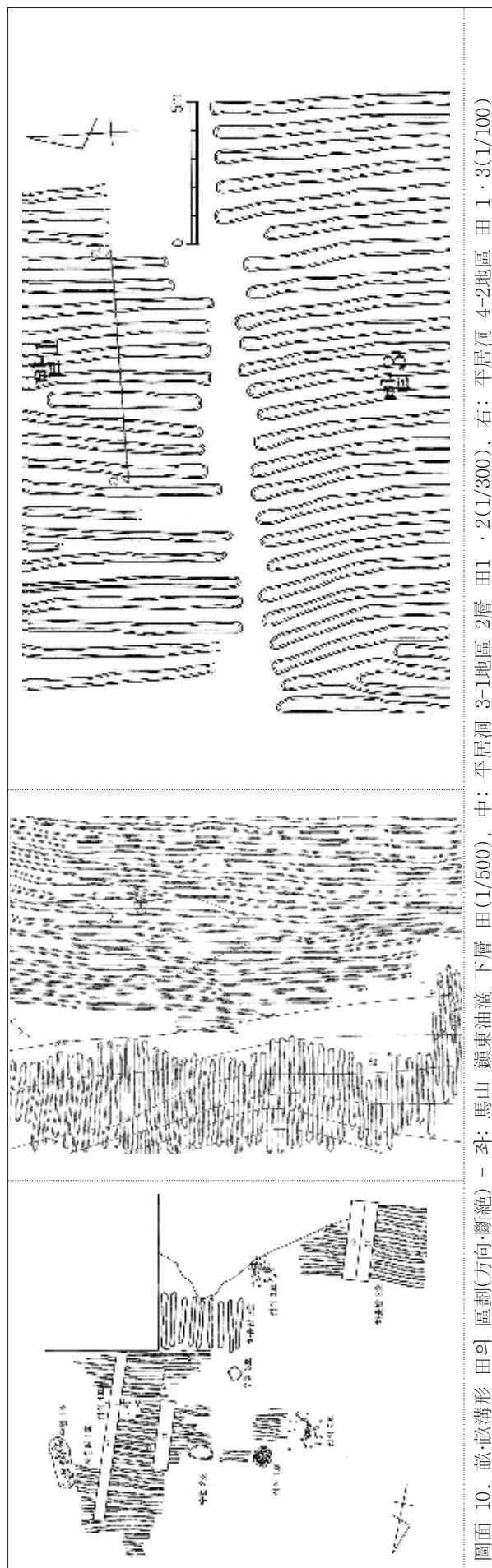
圖面 7. 故畝溝形田 - 左: 鎮安 如意谷遺蹟(1/800), 右: 晉州 大坪里 玉房2地區(1/800)



圖面 8. 晉州 大坪里遺蹟 故·畝溝形田의 重複 - 左: 玉房3地區 10~13號 田(1/500), 右: 玉房6地區 田(1/240)



圖面 9. 晉州 平居洞遺蹟・敵・敵溝形 田の區割(境界溝・境界畦畔) - 左: 3-1地區 1層 田 3-6(1/400), 中: 3-6(1/300), 右: 4-1地區 田 12-13-14(1/250)



圖面 10. 敵・敵溝形 田の區割(方向・斷絕) - 左: 馬山 鎮東油滴 下層 田(1/500), 中: 平居洞 3-1地區 2層 田1・2(1/300), 右: 平居洞 4-2地區 田 1・3(1/100)



圖面 12. 區劃溝形 田(小區劃) - 左: 咸安 道項里 578遺蹟(1/400), 中: 晉州 耳谷里遺蹟 3地區(1/1,500), 右: 春川 泉田里遺蹟(1/1,000)

参考文献

- 報告書 -

- 慶南考古学研究所, 2002,『晋州 大坪里 玉房 1・9 地区無文時代集落』
慶南大学校博物館, 2003,「密陽 琴川里遺跡」, 現場説明會資料.
慶南發展研究院 歷史文化센터, 2005,『咸安 明德高等学校・陜川 海印寺 浮屠 및 石藏碑 周辺遺跡 試掘調査報告書』
, 2006,『咸安 都市自然公園敷地 内 遺跡』
, 2008,『馬山 鎮東遺跡 I』
, 2011,『진주 평거 3-1 지구 유적 I, II, III, IV, V, VI』
, 2012,『진주 평거 4-1 지구 유적 I, II, III』
慶北文化財研究院, 2005,『대구 ~ 부산간 고속도로 건설구간 文化遺跡發掘調査報告書』
慶尙大学校博物館, 1999,『晋州 大坪里 玉房 2 地区 先史遺跡』
, 2001,『晋州 大坪里 玉房 3 地区 先史遺跡』
高麗大学校埋蔵文化財研究所, 2004,『麻田里遺跡』
高麗大学校考古環境研究所, 2006,『홍산 ~ 구룡 간 도로확장 및 포장공사 구간 내 문화유적 발굴조사보고서』
国立晋州博物館, 2001,『晋州 大坪里 玉房 1 地区 遺跡』
国立昌原文化財研究所, 2001,『晋州 大坪里 漁隱 2 地区 先史遺跡 I』
, 2003,『晋州 大坪里 玉房 8 地区 先史遺跡』
東西文物研究院, 2011,『晋州 加虎洞遺跡』
, 2012,『晋州 平居 4 地区 II 区域遺跡』
東亞大学校博物館, 2002,『晋州玉房遺跡』.
東亞細亞文化財研究院, 2010,『晋州 平居洞 旱田遺跡』
, 2010,『晋州 耳谷里 先史遺跡 II』
東義大学校博物館, 2008,『晋州 大坪里 玉房 4 地区 先史遺跡 I』
鮮文大学校, 2001,『晋州 大坪里 玉房五地区 先史遺跡』
嶺南文化財研究院, 2002,『大邱 西迈洞集落遺跡 I』
, 2002,『大邱 東川洞集落遺跡』
, 2003,『大邱 東湖洞遺跡』
, 2007,『大邱 東湖洞 451-1 番地 遺跡』
, 2009,『大邱 流川洞 89 番地 遺跡』
우리文化財研究院, 2010,『馬山 網谷里遺跡』
蔚山大学校博物館, 2005,『蔚山 屈火里・栢川・九秀里遺跡』
蔚山文化財研究院, 2002,『蔚山 栢川遺跡』
, 2003,『蔚山 鉢里遺跡』
, 2004,『蔚山 華亭洞遺跡』
, 2008,『蔚山 屈火里 생기들遺跡』
蔚山發展研究院 文化財 센터, 2005,『蔚山 西部里 南川遺跡』
, 2008,『蔚山 新泉洞 冷泉遺跡』
全北大学校博物館, 2001,『진안용담댐수몰지구내 - 문화유적발굴조사보고서 VIII』
忠南大学校百濟研究所・高麗大学校埋蔵文化財研究所, 2004,『扶余 九鳳・蘆花里遺跡』
韓国文化財保護財团, 2000,『大邱 漆谷 3 宅地 (2・3 区域) 文化遺跡 発掘調査報告書』

- 論文 -

- 곽종철, 1997,「沖積地遺跡 - 埋没 논의 조사법 소개 (上)・(下)」『韓國上古史學報』第 24・25 号
, 2000,「發掘調査를 통해 본 우리나라 古代의 水田稻作」『韓國古代의 稻作文化』
, 2001,「우리나라의 선사 ~ 고대 논 밭 유구」『한국 농경문화의 형성』제 25 회 한국고고학전국대회, 韓国考古學會.
, 2010,「청동기시대 ~ 초기철기시대의 수리시설」『한국고대의 수전농업과 관개시설』, 서경문화사.
곽종철. 이진주, 2003,「우리나라의 논유구 짚성」『韓國의 農耕文化』6. 경기대학교박물관.
국립중앙박물관, 2006,『한국 선사유적 출토 곡물자료 짚성』
金度憲, 2003,「先史・古代 논의 灌溉施設에 대한 檢討」『湖南考古學報』18. 湖南考古學會.
, 2010,「嶺南地域의 原始・古代 農耕研究」, 부산대학교 박사학위논문.
金炳燮, 2003,「韓國의 古代 耒遺構에 대한 檢討」『古文化』第 62 輯, 韓國大學博物館協會.
, 2007,「無文土器時代 嶺南地域의 区画溝에 대한 檢討」,『東西文物』創刊号.
, 2009,「밭유구의 調査方法과 田作方法」『한국과 일본의 선사・고대 농경기술』, 경남발전연구원 한・일국제학술대회.
김성옥, 2008,「청동기시대의 어로활동」『韓國青銅器學報』第 3 号, 韓國青銅器學會.
문백성, 2009,「논유구 조사방법 및 분석과 해석」『한국과 일본의 선사・고대 농경기술』경남발전연구원 한・일국제학술대회.
安承模, 2008,「朝鮮半島 青銅器時代의 作物組成」『湖南考古學報』28 輯.
安在浩, 2000,「韓國 農耕社會의 成立」,『韓國考古學報』43. 韓國考古學會.
, 2010a,「堀立柱建物이 있는 청동기시대 취락상」『한국고대의 수전농업과 관개시설』, 서경문화사.
, 2010b,「각 지역의 경작유구」『한국고대의 수전농업과 관개시설』, 서경문화사.
이홍종, 2010,「도작문화의 정착과 확산」『한국고대의 수전농업과 관개시설』, 서경문화사.
윤호필, 고민정, 2006,「밭유구 조사법 및 분석방법」『야외고고학』창간호, 한국문화재조사연구기관협회.
甲元真之, 2002,「東アシア先史時代漁撈」『東アシアと日本の考古学IV』

大庭重信, 2005,「無文土器時代の畠作農耕」,『待兼山考古学論集 - 都出比呂志先生退任記念』,大阪大学考古学研究室.
藤原宏志, 佐々木章, 俣野敏子, 1989,「先史時代水田の区画規模決定要因に関する検討」『考古学と自然科学』第21号,日本文化財科学会誌.
杉山眞二, 2000,「植物珪酸体」『考古学と植物学』,同成社.
田崎博之, 2002,「朝鮮半島の初期水田稲作・初期水田遺構と農具の検討 -」『朝鮮半島考古学論叢』,すざわ書店.